

Centimetres
KODAK Color Control Patches
© The Tiffen Company, 2000
Kodak
LICENSED PRODUCT



厚生新編

洋学文庫
文庫 8
C 46
2





弘化二年五月

宇田川撰稿本



苜蓿藍

二 天氣

六 秤豆

三 車前

凡 水車前

十 蓬子菜

七 蜜蠟

ハ ワルオルトル

九 ワルドオルトル

上 惡心

五 瓶

厚生新編

圖式收入

○菘藍

イサチス左又バステル蘭
イサチス右又ガチエ左羅

此草葉ハ車前細に似く深緑、臍多し、莖高二尺余、莖端五六月花を咲く、金黄色、五六月用

産地 意太里亞、ラングエドク、特子「トソロセ」
「シント」
「ボリス」
「エロイキス」
「ト」
「アルバイ」等の熟玉多し

効能 乾燥を但し辛蝕せん、煎汁を葡萄酒和し
服し、脾の硬結を解きし、生葉を腫物貼し、膿を排
除し、金創を収斂、血を止、毒創を愈す

此草年々三月上旬は種を下し、培養し、藍色青の染料用
ふ〇一年は四度葉を摘採すべし、或五六度は採す可なり

と雖も初の四度搥るを貴小後の二度ハ下品と云四度
は初の一度を最上と云一女子次品と云 ○五度六度
の者を「マロウ」云々稱一効能有方なり

葉成長しるを搥り暫く重積重置而後搗爛を搥爛
して一日は八度或十度攪セ堆積一替一捏して小團丸
とん此を「ゴイス」又「ゴカイ子」と名く盆に排列して陰乾
し搗き細末と一用ふ

搥末を多々木杵を用いて細末と云後池水をせし注濕
四小時の同は四度上下は攪拌して普く湿氣を去るべし注在る四小時
の同は四十度攪拌して後包乾して染料に用ふ

藍赤 陳久なるを良と云十年も貯ふ赤 ○此赤を染る最深
の色赤 深青色なり凡そ染家此藍を染赤 濃淡諸青
の色本ハ皆此陳久の者赤を染る赤

○天氣 左ノル 蘭

天氣と云濛霧の清濁輕重 朗晴陰雨等を以左ノ後
日の天氣陰晴を以小説を尋く

大陽を以占ふ法

大陽旭出の時色鮮明、形常より大なる取斂 光芒光なり
取取りて其日終日好天氣と知べし ○旭出の時薄霧
を見り其色亦好天氣の徴なり ○晚降日没の時

大陽の周圍は小き赤雲數個有り
其々個々分難
なるハ晴徴なり

大陰を以て占ふ法

月の昇る時色赤上ハ夏月なきハ明日暑き甚しと知り○
月より色鮮明なるハ明日の晴を卜すべし

新月の周邊、滯り清澄なるハ晴徴なり○新月の三日前
後、上下弦ハ大陰の光少く霧かき曇るハ晴日を得る

○新月の前後四日の間大陰の中ハ斑を見ざるハ終其月中
晴天を卜すべし大陰の盈中少くも斑文なく鮮明ハ且つ
聖則雅谷貌道と名する天の一處、空明なるハ晴の徴なり

シニトヤコブ
道銀河放
諸君の言
案をあり

○大陰上る時其周圍ハ暈輪を見ざるハ口其
名、其暈輪速に消散するハ晴の徴なり

星を以て占ふ法

恒星の光明中ハ耀り光り斑を見ざるハ晴の徴なり

滯り占ふ法

諺ハ晚紅朝白ハ順禮の旅行なりと云ハ寶其言なるハ晚

霞の串ハ紅なるハ晴候なり○晚暮ハ雷声なく雲なく

露多く降るハ明日朗晴なり○或鳥羽の如く或黃楊枝の如

き雲山嶺を出覆帽の如くツゲ何り雲雲落る時ハ

明日青天を卜すべし○虹の東方に現るハ晴候なり

Vardande nord, Vmorgent
dit, is de reis van een
pelgrim.

○旭日は白環周^{其環}地平の處に其環金を鍍するが如く^又家^{曉間人}の窓の玻璃板に露を置くに果して晴候とん。○大陽色鮮明なり。曉に露多^{く降る}終日晴好の天象を知べし。
○季のまゝ日蝕の日ハ晴好なるをなす。

動物をなす法

鳥日没を見く声を散せぬ巢^穴は居り或は日没後集^るて^燕樂するハ晴候なり。○鴉羣集して大啼きカライ^鴨類の朝啼き、蝙蝠日没を以て巢穴より出遊飛^ぶる皆晴候なり。○鶴言く沖飛して速に下るを水禽水濱より外に退くハ程数日雨らざる兆なり。

○秤豆

「ネグボネチス」蘭

○摺按は古色漢土に所謂海紅豆なるべし。今^姑和名を澤しと秤豆と云

印度産の豆なり。或^云此豆を法馬は代る物を秤量する故に秤豆の名有り。季のまゝハ學子豆^{シドウ}譯名ありと名く其故ハ此豆朱紅色を一端は黒斑有り。入學兒童の装に用ふるに似たり。○東印度を「サカ」と名く。古き亞刺比亞族を金屬を鐸着ると云義なり。○此豆^{大なる者ハ}二十一粒を一マース^量の重有り。一マースハ一錢を即「ロト」^量の四分一なり。小なる者ハ二十四粒を一マース有り。故に秤と平等新鮮の者を用へ

凡字
圖

し早く採る者陰地は生る者ハ全體黒し ○此豆及此豆
英の圖ハ「ル字」^板 第十三、十四、十五圖は出たり

○車前

「左ノギズレイ」^蘭
「ラホバコ」^羅
「プラニタゴ」^羅

目徴 根細く長く鬚の如し此より長葉を生ず葉各小梗

つり多火地は塌して星布^ハ葉中より硬刺なる莖を抽出

或四^出或稜^出つり或滑澤^澤或ハ毛茸^茸つり莖の上は花を綴る莖

四^出瓣筒状^出あり弱なり莖内少花を咲く亦莖の形は

似筒状四出、内ハ一心莖、四長鬚つり花後実を結ぶ、実

ハ幾^ク卵円、或ハ尖円形、熟するを中央より横に裂け、内ハ

縦隔有る、兩室に分ち、每室長^クつり子粒を含む。○リュツ

莖を抽く

ピウス^人の説は子ハ裸子なり二裂せる衣を被り上ハ蓋を

覆ふと云へり ○トウル子ホルト^人の説は凡そ端整四瓣花を

開き其実熟するを膨脹して花膜を破る諸草皆車前又

属とへり云へり「ラユス」^人の説も亦此は同し ○ホルカ^人メル

人車前属の目徴を説く云凡そ織々糸の如き細花穂を

為し花筒卵円の子室中より膨脹し子室熟するを中央

より縦に分裂し内子^{一蚕の形なる}細子二個宛有る者是なり ○車前丸

其莖多くハ葉なり或ハ葉を生ずる者つり葉も尋常の品、

狭長なり或ハ鋸齒或刻缺有る者つり或ハ莖ハ細葉多し

對生有る者つり葉同より花穂を生ず ○子ハ長^クつり一方ハ

多少に窪し花四出内は長鬚あり地は布く葉ハ或ハ深く或
狭く或深く刻缺あり七月花を生し八月子熟し子効
用度し

種類し「アメリウスマーセル」曰此草屬羅甸ヨ「フランクス」云
ハ蓋し羊舌の義あり葉形羊舌に似るなり二種あり之を
大葉一を小葉と名く

○第一種 大潤葉車前反張者 ド子之ハ所謂大車前

○第二種 小車前 「トバ子ウス」同し

○第三種 薔薇車前、穂有葉者

此他亞墨利加、印度所産の車前亦多し、雖も家玉の草

家後植る者少し、故に此に記載せん

産地 右所記三種ハ獨乙和蘭、仏萊西、諸厄利亞等

政邏巴諸州路多

効能用 清涼し乾燥し収斂し稠厚し血液を清し

創を愈し下利赤痢、淫血過多、遺精、吐血、尿血、内部

の創瘍を治す、蒸餾露或煮湯し用ふ。○葉の汁経久の

汁経久の 創潰瘍に貼し汚穢を淨刷し愈す。○露ホリ

水ハ齒齦潰爛、口中叢疹、咽喉焮腫、効あり含漱劑

とん ○薔薇露を和しハ焮衝眼に貼し良

○水車前 澤名 ヲトル 左キ乙ノ蘭

穢也

水草なり、莖圓く中空ありて毛茸あり、根より葉を生じ、葉は
長楕円形、葉の枝多く、枝端は五瓣の黄花を用く、多
く攢簇なり。○或ハ葉は紅紫斑有り、短毛を生ずる者あり
○^別種ハ牙賣加、バルバドス、其他亞墨利加の煖地ハ生じ
プリエール、欲之を「ダマソウム」アメリカニム、マキニエム、フシ
タキニス、オリラ、石レ、ラヘスセンテ、フムクワ、ゴホサ、と名く
産地、常種ハ和蘭、獨乙、仙蘭西、諸厄利亞、の渥池河
邊ハ生じ、^別種ハ亞墨利加の池澤ハ生じ、家少致してハ
藩自心せん、^{平地}本^地通暢の處を好み、澤地を好み
ガ故なり、且此種ハ觀て美なり、効用なきを以て種者

稀なり

効用、清涼、乾燥し、寒達し、血液を清刷し、熱性、失
苟兎陪苦、黄疽、水腫、効あり、葉を煎湯と、或ハ
葉の汁を用ふ

重複

○ホルカメリア

此植物ハ「子ウシニヒユルグ」獨乙地多の邊に生々千六百年の初「ホルカ」
メル云者首々其形状を詳記せしふ因る以て此植物の

名々
目徴 此属の目徴ハ莖五出、花瓣一方は偏り実中二核
を収む核重皮を被る。○三種あり

○第一種 有刺者 ゲートルンテ ホルカメリア 蘭 ホルカメリア
アキエシアタ 羅

○第二種 無刺者 マンゲートルンテ ホルカメリア 蘭 ホルカメリア
イ子ルニス 羅

○茅三種

デカルテルデ ホルカリア 蔦 ホルカメリア、左ルラマ

○産地 形状

茅一種ハ「各ア子」の説ハ「牙賣加」の原野

は多く生ると云「ヤクギン」の説ハ「西墨利加」の「カラビセ」諸島

多しと云其流ハ灌木を其枝極直上し高五六尺白花を花

香無し内ハ五六條の鬚葉あり但し此属ハ真徴ハ四鬚葉

有る其二條ハ長し二條ハ短きを真徴と云花五出よ

花喉の處より二出ハ左ハ寄り三出ハ右ハ寄り自ら歪形を

為るなり「スロア子」の所説亦此に同じ

○才二種ハ「リュウピウス」谷ガ所説「ストロイド」ヤスマインストロイク

より幹硬く円く枝を分ち枝ハ十字様ハ葉を生長を葉ハ

耶

形梨椽子葉に似し面深緑背ハ筋脈多し花傘状を

為し形耶葉各花の如し筒筒ハ扁く皿の如し花

後軟実を結んで形梨子の如し大サ小櫻桃子の如し莖

上ハ在り莖四路あり十字様ハ多し硬し「ヨーステルセ」諸

島の海濱に生し常夏の樹なり ○麻刺抜ルの「ニール

シヤイル」地にて「ワートル」ヨイスボム」と名けしを「ヒルマン」

此と同種ハ「ヘルマン」ヨイスボム」の悪臭錫蘭産耶

悉著し亦同十種とん

○才三種ハ印度に産ル枝円く花傘状多し莖鐘状

分路なく石、鋸、齒、四個の軟実集合せり

洋なまを茲小畧す

蜂の造るすの蟻ハ色黄なり之を生蟻又黄蟻と名く蟻ハ
色ハ白く、或は赤く、蟻ハ黄色の色ハ雜するなり、理科の説ハ
蟻ハ脂油の類なり、脂油ハ蟻のまじり凝らざる者といふ、蜂脾
を造るいざい月日を経る者ハ色白く或ハ鮮黄なり者ハ
同一籠の内一季の内ハ如此者雜り生きたるを「マダ
テ」ト名く時を経るを「漸く」ト名く、黄色ハ変れ籠の上
層の者ハ赤く、赭色ハ入り、如此諸色の蟻、大氣ハ中々曝せ
皆一様潔白トなる

又一種曝白して終小潔白トなる蟻ハ、赤色蜂児花

を獲収む時、黄葉の混入る者ハ、^又亞墨利加の前島ト名
小野蜂、樹穴、巖隙ニ巣く造る蟻ハ、^{黒くして}軟なり、潔白
して其色脱せ、或云其地葡萄多し、蜂亦多し、蟻を
集む故ニ然り

凡そ蟻ハ蕎麥圃多し地或牧野多し地方の産を上品
○蟻ハ温氣を得る軟解し、微熱する、焔流を、空中ハ
硬くして碎くべし、火を点く水を活焰を以て焚へ、烟
無く惡臭無し

○蟻を袋ニ納む、搾る後、袋中ニ残り物有り、「マダ」と名
瘍醫、神経病ニ用心、馬具鍛匠亦古きを用品

蠟を精製する法

二法 一法ハ蜜を除くことありハ一搾して器の余瀝を蠟
中ニ在る^残盡く脱せざる故ハ一二日清水ニ浸して洗ふなり
或ハ蠟を細子碎破して蜂籠の傍ニ置を、蜂来り余蜜
を吸^吃し其蜂の蜜を全く脱^{此を}し一法ハ更ニ沸湯を
洗ふなり

精蠟ハ餅^餅状^餅為して、蜂蜜の佳香あり膩滑そ粘り無く
多々黄色なり、黄色ハ蜂ハ此を食^食す植物の性より深
淺なり

箱匣を造る工者、蠟を用く光澤をばく又長燭を

造り羅馬の諸殿堂、人家の盛宴に用ふ又絨封、油葉、
膏薬に配合す

○ワールワルトル

一名ワルサルトル
羅甸「コングリタマヨル」又「サムム」

○榕按「先輩地黄」充者非有 邦産洋

なぐん

此草羅甸名義二名行其「シムベテム」ハ此草金創を愈し生肉を

生ず効行名子名固名或云此草厄利齊語亞名據名を

物作を膠着する義あり獸肉を細塊り切塊り此草の葉或ハ

根を加く煮きを其肉片相付着塊中塊作塊たりと云

〔形状〕花草瓣塊の如く筒長く筒端を裂

け草塊の如く塊火把の如く塊莖ハ五瓣を裂けて狭塊

莖より心蕊生し心蕊の本塊四箇の卵巢塊り花後熟塊

して子塊なる其形蛇頭の如く塊莖中塊に在り

〔種類〕此草種が変生甚く多しと雖も左に唯三種のみを
記す

○芽一種 花 白花或淡黄花或ハ此系花の用苗大なる者

「シムペラム マグニム」 羅甸

○才二種 根 左ベロセン根の苗大なる者 「シムペラム マム

左ベロサ ラチカ」 羅甸

○才三種 「オーステルセ ワールウルト」の葉田より青花

を開く者

〔產地〕才一種ハ和蘭獨乙、佛系西、諸厄利亞等の小邊
雜草の地ハ野生也 ○才二種ハ意太里亞、南佛系西オ
ト生し ○才三種ハ「レスト」地ト生す

根を

〔効能〕此草中等は温暖より湿を乾し混斂し滲透し
稀養を稠厚し酸腐液を緩和し其より創を愈す

故に下利、赤痢、吐血、瘡血、肺瘍、内痔諸創は効あり

皆煎湯、昆撮ル弗、舎光別、エッセンチアト用ふ又

外用し之出血を止免「ブレウク」病 金創を治す

○ワルドメースル 和蘭 又「スル」レーフルコイト」 同上

「アピリナ ラリス」 羅甸 「アスピラ ヲドラタ」 全上

〔產地〕和蘭、獨乙、佛蘭西、諸厄利亞の山地ト生す

〔効能〕此草中等は温暖より湿を乾し牙塞を昇達

小便を利し血液を清滌し肝脾の牙塞を開く者

葡萄酒或麦酒に浸し茶に代て与へて良なり

粗糙

○蓬子菜

「ワルド ストロリ」又「メーゲル コロイド」和蘭
「カルリウス」
「リネウス」
「羅甸」

〔形状〕蓬子菜ハ先^葉芒状草の^葉葉ハ粗糙^葉五

六葉^葉茎を周^葉りて先芒の如^葉く節々^葉と生^葉る花ハ草^葉瓣^葉五

末^葉大^葉子^葉分^葉き^葉て^葉未^葉辨^葉と^葉為^葉る花後^葉二^葉粒^葉の^葉裸^葉子^葉を^葉結^葉ぶ

〔産地〕和蘭獨乙、佛、東西、信尼利亞等の荒野砂地

の路傍^葉自^葉生^葉る

〔効能〕中等^葉温^葉——暖^葉め^葉—温^葉を^葉乳^葉—混^葉飲^葉—創^葉を^葉愈^葉

—疝^葉疝^葉は^葉効^葉何^葉り^葉煎^葉湯^葉—或^葉ハ^葉細^葉末^葉と^葉用^葉る^葉一^葉錢^葉ハ

至^葉る^葉法^葉般^葉の^葉疥^葉癬^葉ハ^葉其^葉汁^葉を^葉以^葉て^葉洗^葉ふ^葉べ^葉し

中等^葉温^葉—
混^葉飲^葉—

○悪心

ワルギング 和蘭
ナウサリア 羅甸

吾人平生ハ胃ハ蠕動^葉機^葉と^葉稱^葉して^葉其^葉の^葉動^葉く^葉り^葉ぬ^葉き^葉運^葉動^葉を

此^葉蠕^葉動^葉機^葉、食^葉道^葉と^葉、故^葉て^葉胃^葉の^葉下^葉口^葉腸^葉の^葉始^葉元^葉は^葉終^葉り^葉上^葉と

又^葉下^葉は^葉致^葉して^葉飲^葉食^葉の^葉消^葉化^葉、運^葉行^葉を^葉進^葉む^葉よ^葉き^葉平^葉生^葉常^葉

有^葉の^葉運^葉動^葉を^葉故^葉に^葉平^葉生^葉ハ^葉其^葉機^葉動^葉を^葉覺^葉る^葉又^葉意^葉の^葉如^葉く

は^葉増^葉減^葉を^葉能^葉く^葉此^葉運^葉動^葉を^葉失^葉る^葉下^葉方^葉より^葉上^葉方^葉に^葉逆^葉

に^葉運^葉行^葉を^葉す^葉時^葉ハ^葉胃^葉子^葉快^葉不^葉快^葉を^葉覺^葉る^葉即^葉ち^葉悪^葉心^葉に

食^葉糧^葉總^葉く^葉廢^葉絶^葉を^葉不^葉食^葉と^葉名^葉く^葉此^葉悪^葉心^葉を^葉兼^葉る^葉也

兼^葉る^葉也

何を^葉以^葉て^葉胃^葉ハ^葉如^葉是^葉逆^葉行^葉の^葉運^葉動^葉を^葉生^葉ず^葉を^葉原^葉より^葉生^葉因^葉由^葉

多^葉何^葉り^葉故^葉に^葉吐^葉逆^葉を^葉禁^葉止^葉す^葉薬^葉劑^葉種^葉々^葉あり^葉と^葉統^葉て^葉薬^葉を

病因と對せざれば効無し此病は必ず効有り云薬剤有り
 〇嘔を起す近因は身體に害する物を食し或は胃を充つ
 べきより多量に食す時ハ嘔を起すは皆造化の生身
 を保つて生身の機を死體に成すは皆生身の機を
 損傷するを見るべし 〇法の毒物吐劑、多量の下劑を
 服するも悪心を起さず是れ嘔吐を以て右の諸物を胃より
 出んを善極なりと云ふべし 過食して起る嘔吐は咽
 喉を肉痺を起すなり吐出ざるなり然るも毒性の物
 或は腐敗の物を食して軟和及び脂様の劑を与ふと
 能はざるは老の吐劑を以て是れは飲液を多量に服せし

薄荷

薄荷

〇其方 韃爾答律斯 粵黙氣腐斯 二厘五毛 答末
 林度 四錢 絲答油 一滴 右三味煉和して 鐵筆 一頭
 服す 〇又方 乙百馬格安那 三分三厘 白葡萄酒 八錢
 絲答油 一滴 右調和して 頓服す
 〇此等海は航する人ハ必す 惡心等のをたぐん或ハ嘔吐する者
 あり或ハ数十回円々旋轉し或ハ車に乗る後方へ行
 者ハ然り此等皆非常の運動を以て胃を躁擾する因
 あり 〇治法ハリンセイン 酒と水を知りて 稀くし此は
 枸橼酸少許を加へ又ハ阿芙蓉液或ハ白罌粟舍利別
 少許を加へ用ひ胃の知覚を鈍るべし
 惡心ハ常に身體を運動するに因り胃を攪擾するは

因る者其の之をば旋轉して止まざる物を見或ハ嫌ハ惡
む品を食ひ若くハ口前食ひく。食傷吐く品を食
へて胃ハ此惡心の極力を盡す此等の惡心ハ前ハ所謂
「リニセウイン」等を用きて治す事用及ばず

○餓敗せる食物を食ふを惡心を養ふに何れ或ハ食する
時餓敗せる物も食ふは胃中にて餓死吐く有り
或ハ食の爲は胃液、脾液、膽液等腐敗して惡心を發
し或ハ神経、動脈、門脈等の運動は因る者其の諸左
の起因詳なむ。○凡そ食機衰敗して胃困難し胃の部
膨脹し暖しき氣を泄し口中は苦味を覺るハ胃中汚
物多し因る者其の志あり知るし。○尤の健胃劑良効

何れ其方 盧會 半錢 沒藥 一錢 三棗 二錢 蘇荅 薄荷

油 三滴 亞兒鮮鹽 三分三厘 右研合して散薬として十

服多し 毎日三服服用し若く此散薬服用中は大便秘結
止むと何れも下劑を加ふべし。○若く肌熱煩悶

熱候ある者ハ酸腐の膽液より起る惡心の知る此膽液
を排泄する方術を行ふべし若くは膽液滯留するに何れ
を腸より下す痛利或ハ血痢壯熱を薬費して容易に
治し難し其熱毒胃に至る惡心の後粘稠液或ハ膽
様の液を通ざる者何れ此症を緩和の飲液を多服して
胃中を疏通さへし大便通して後惡心鎮まらん或ハ惡心
鎮まらぬ時ハ尤の飲劑を用て鎮止さへし其方

と重複

精大麦

三ノリノ根

各八錢

玫瑰花 半握

水 一十五才大
百二十錢

蓋を掩じ 右後火を煮て

大麦熟して乾花を煮て

心師を瀝し此は枸橛汁 白罌粟舍利別 各八錢

リニセ酒 十六錢右加へ患者は少く死時を定むるを

○若し粘液既に疏解し熱候より衰弱多き者は左の方を良

く其方

枸橛汁 錢八 酒石塩 錢一

右混和し其沸騰するを棄て

薄荷 餘荅露 四十八錢

右一匙宛時と与ふ 薄荷 餘荅露 無き

時ハ大麦水を代用する可なり又 薄荷 餘荅油 一二三滴 沙糖少

許を混和するも良なり

嘔吐を散らす毒の胃中ニ在る者ハ吐劑を与く其毒を排

泄をへし但し胃及胃の近傍に熱衝或羅斯ロリスなるは因り

散らす嘔吐ハ吐劑を用ふを死に到るなり何者胃及胃

部既に嘔吐を散らす原因なり更ハ吐劑を与ふを死に其

吐愈了るまで陸續して止吐をなするなり ○故に熱を散らす

嘔吐の志は吐劑を与ふを胸中悶煩、肌熱、胃痛及

胃部の悸動なり食を食するに劇痛を散らすを死に

候如く且つ發熱を散らす必ず胃及び胃の近傍

に羅斯或ハ焮衝なり微候なり此志ハ鎮吐の劑を處

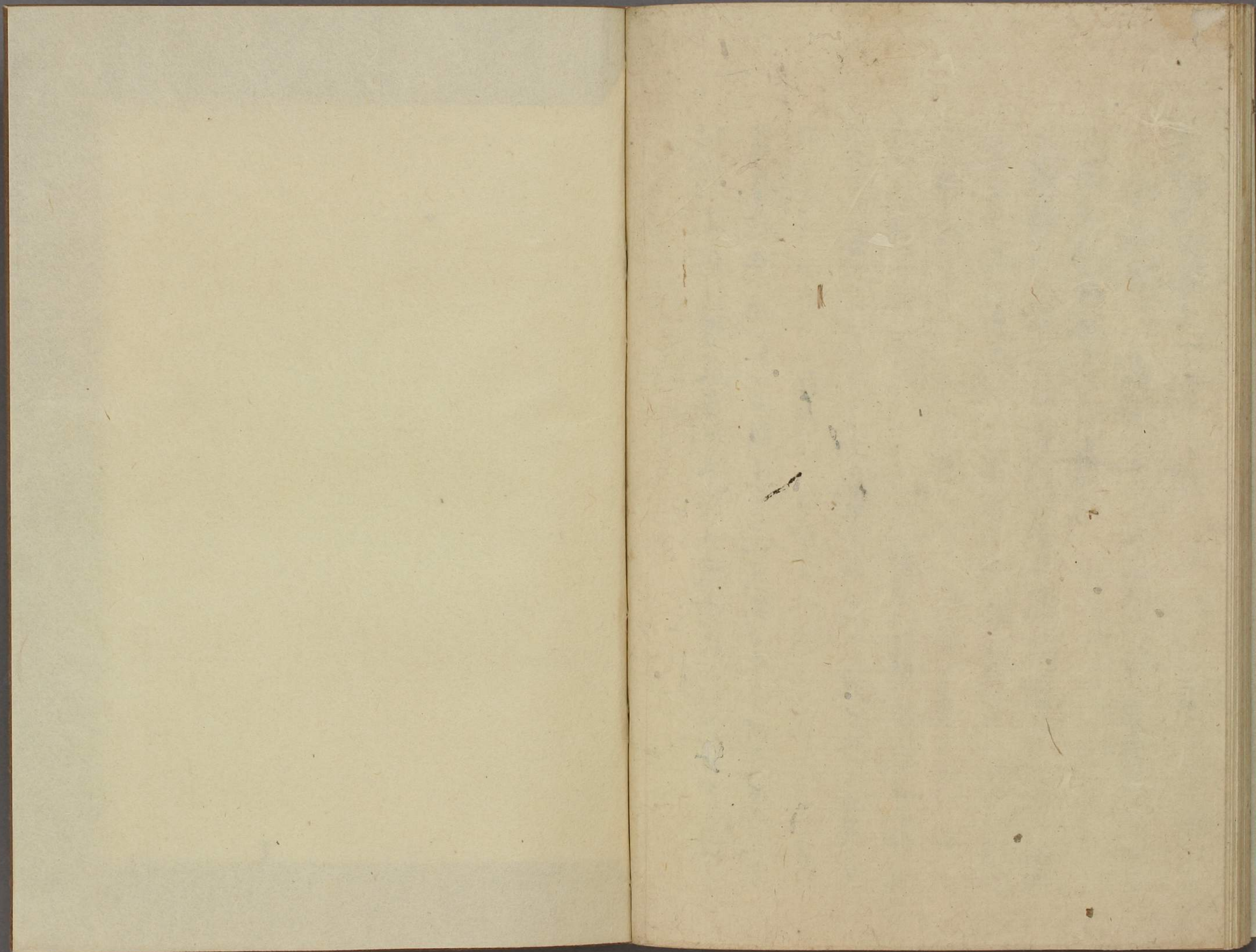
して其吐を止むべし其方

薔薇花

接骨花

右醋を以て琴布ヒツブを為し

胃の部を貼る



Vergelykingstafel
van het Drieburger, Meinberger en
Pyrmontser Mineral-water.

Bestand-delen.	in 25 ℔	in 25 ℔	in 25 ℔
	Driebur. germāt.	Pyrmont. termāt.	Meinber. germāt.
Wortzuur yzer.	grēner. 33	grēner. 35	grēner. 83
Koolzuur kalk.	375	325	342½
" " Bitteraarde.	7	x	x
Smarszure kalkaarde.	270	388	32½
" " " Bitteraarde.	65	375	38¾
" " " Soda, of glaukerzout	300	70	35
Toutzuur " " "	6	25	10
" " " Kalkaarde.	6	x	x
" " " Bitteraarde.	32	39	38¾
Wassachtige stof.	6	33	7½
Seiaarde.	+	2½	+
Wuinaarde.	+	+	+
	in 16	in 16	in 16
	kubick	kubick	kubick
	duimen	duimen	duimen
	water	water	water
Koolzuur gas, of vaste lucht.	28	22½	32
	kubick	kubick	kubick
	duimen	duimen	duimen

Het met + getekende is nog niet juist bepaald.